

2023年度 大学入学共通テスト 国語 現代文(本試験) 分析

試験時間(古典とあわせて)80分

難易度	出題分量	出題傾向
全体としては昨年と比べてやや難化した。第1問(評論)はやや難化、第2問(小説)は昨年並みであった。	文章量は第1問は昨年並み、第2問は増加。解答数は第1問で1個増加、第2問は変化なし。試験時間に比して文章・問題が多いことは例年と変化なし。	第1問、第2問ともにオーソドックスな出題であるが、第1問の間6、第2問の間7のような複数の文章・資料を組み合わせて考える問題が共通テスト独自の出題である。
<p>総評</p> <p>共通テスト3年目にして出題の方向性が明確になったといえる。</p> <p>第1問の評論ではフランスの建築家ル・コルビュジエの建築における窓について考察する文章が2本出題された。昨年と同様の形式であるが、受験生にはあまりなじみのないテーマであり、読みにくく感じた人も多かったのではないかと見られる。また、複数の文章を比較したり関連づけたりして答える問題では高度な読解力・思考力が求められる。</p> <p>第2問の小説はやや文章が長くなったものの主人公の「私」の心情を問うオーソドックスな出題が中心で、受験生は取り組みやすかったのではないかと見られる。しかしながら、設問ではいくつか紛らわしい選択肢があり、解答に迷う受験生も多かったであろう。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	近代以降の文章(評論)	50点	<p>問1は同じ漢字を用いる言葉を選ぶ問題が3問、漢字の意味を問う問題が2問出題された。昨年と同様の形式であり、定着したと見てもよいであろう。</p> <p>問2～問5は、例年と同様の傍線部説明・理由の問題である。傍線部前後の複数の解答根拠を発見して答える点は例年通りの出題である。しかし、選択肢が選びにくく迷った受験生が多かったのではないかと見られる。本文中に書かれていないことを見極めることが求められた。問6は会話文の空欄を埋める問題であった。(i)と(iii)は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の比較・関連が問われており、難易度は高い。(ii)の表現意図を問う問題もやや難しかった。全体の時間配分を考えると、問6に十分な時間をかけられなかった生徒にはかなり厳しい問題であったと考えられる。</p>

第2問	近代以降の文章 (小説)	50点	<p>旧センター試験から一昨年度まで出題されてきた語句の意味を問う問題が、昨年に引き続き出題されなかった。出題形式が定着したと考えてよいだろう。</p> <p>問1～問6は主人公「私」の心情を答える問題である。小説問題の定番であり、傍線部の前後に明確な解答根拠が複数あることから、受験生の実力がそのまま反映される問題だと言える。</p> <p>問7の資料は本文と同時代の広告である。見慣れない資料だが、補足説明をきちんと理解していれば解くことはそれほど難しくない。見た目の奇抜さに惑わされず、目の前の資料を隅々まで読んで意味を理解することが重要である。</p>
-----	-----------------	-----	--

受験生へのワンポイントアドバイス

まず、第1問の問1対策として漢字の勉強が欠かせない。漢字の勉強は語彙を増やすことにも繋がり、第1問のような難しい文章に対応するためには必須の学習である。

第1問の問2～問5は紛らわしい選択肢が多かった。対策としてマーク式問題集や共通テスト対策問題集をやりたくなるだろうが、その前にきちんとした読解力をつけなければならない。文章の内容が理解できていないのにマーク式問題ばかり解いても当たったり当たらないだけで、実力が向上したとは言えない。まずは基礎的な読解力の育成が欠かせない。学校の授業をベースに難しめの評論文をじっくりと読んで読むトレーニングを重ねてから問題演習に入るべきである。

第2問の小説対策も教科書をベースにした読解力の養成が最優先である。小説では登場人物の心情の読解が最も重要である。闇雲に問題を解くよりも文章を飛んで人物の心情を的確に推測できるようになることをまずは目指すべきである。そのうえで問題演習を重ねていこう。